



学校の校長室には、よく歴代の校長先生の肖像写真が飾られていることがあります。威厳のある顔がずらっと並んでおり、さかのほるとカラー

写真から白黒写真へ、服ていきました。写真は下京装も昔のものになってい第1番組小学校(開智校)くさまが見られ、長い学校の歴史を感じさせるものです。

下京区の開智小(現在は学校歴史博物館)には、1869(明治2)年、校長に近いものでした。先生の肖像画が所蔵され初期は一校あたりの教員

数も少なく、開智校では最初5人が教壇に立っており、そのリーダーといふかたちです。本作は明治の早いころの肖像で、まだ写真ではなく、神田文祥という画家によって、日本画の手法で上平身の姿が描かれています。

子どもらに尊敬され制作

森九郎助は幕末、寺町高辻北に居を構え、森石華の号で書家として活動していました。また、近所の子どもたちに読み書きなどを教える手習塾(寺子屋)の先生でもありました。

明治になり、新たに小学校ができることになること、教育機関を整理統一するとう政府の方針に従って、多くの寺子屋や

神田文祥筆「森九郎助像」
(明治時代初期、元開智小蔵)



(京都市学校歴史博物館 学芸員 森光彦)